

病虫害防除技術情報第11号

平成30年10月3日

三重県病虫害防除所

県内の茶園で発生が確認されたヒサカキワタフキコナジラミについて

1 発生経過及び状況

平成30年4月5日、北勢地域の茶園において、茶株内の地面に近い枝の茶葉裏面に白い綿状物質に覆われた種不明なコナジラミ類幼虫の寄生が確認された。三重県病虫害防除所で飼育したところ、コナジラミ類成虫が羽化したため、同虫の同定を農林水産省名古屋植物防疫所に依頼し、5月30日にヒサカキワタフキコナジラミ (*Pealius euryae* (Takahashi)) と同定された。

2 国内での発生状況

チャでの寄生は、平成27年10月に埼玉県で初めて確認され、平成29年7月に静岡県、平成29年10月に愛知県においても確認が報告された。

茶園における生息場所は、地面に近い葉に限られるため、茶生産における被害は報告されていない。本種は、ヒサカキ及びチャに寄生する。

3 県内での発生状況

平成30年6月25日に分布調査を行ったところ、北勢及び南勢地域の主要茶産地茶園において発生が確認された。

4 形態及び生態

成虫の体長は1.0mm、体色は白色である(図1)。幼虫は小判状で淡黄緑色をしており、周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ(図2、図3)。終齢幼虫の体長は成虫とほぼ同じである。成虫は茶株内の新芽や新葉に生息し、大量の卵を葉の裏側に産卵する。幼虫は茶株内の葉裏に生息して白い綿状の分泌物を出し、葉裏全体を覆うようになる。

成虫、幼虫ともに、茶株地際の直射日光が当たらない葉に好んで生息する(図4)。

現在のところ、茶株内の摘採面上における新芽・新葉への寄生は確認されていない。

5 被害

長期遮光を伴う栽培では摘採面にも発生する可能性があるが、茶生産における被害は現在のところ報告されておらず、茶生産への実害は生じないことが推察される。



図1 ヒサカキワタフキコナジラミ成虫



図2 葉裏の幼虫



図3 葉裏の幼虫



図4 生息部位

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。